

様式 3

技術開発課題中間・完了報告

東北森林管理局 森林技術センター  
米代東部森林管理署

課 題	針広混交林への誘導のための施業技術体系の確立				開発期間	H14 ~ H18			
開発箇所	米代東部森林管理署 2283に1・2270ろ1・156 い	担当 部署	センター部会	共同研 究機関	技術開 発目標	1	特定区 域内外	●	
開発目的 (数値目標)	<p>国有林は、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営への転換を図り、3つの機能類型区分に応じた森林づくりを進めている。</p> <p>一方、新たに策定された森林・林業基本計画においては、森林の有する多面的機能の発揮の目標（望ましい森林）について定義され、針広混交林を含む非皆伐による育成複層林の考え方が大きく位置づけられている。</p> <p>当局においても、既に「侵入広葉樹の育成による優良針広混交林への誘導試験」の技術開発課題を設定するなど、試験地設定を含めてこれらの課題に取り組んでいるところであるが、まだ、端緒に付いたところである。</p> <p>このため、これらの取り組みの幅を広げ、年齢や林分状況等を異にする条件下での針広混交林への誘導技術について調査・研究を行う。</p>								
実施経過	<p>1 開発期間 平成15年度から「侵入広葉樹の育成による優良針広混交林への誘導試験」（開発期間：平成8年～平成22年）と統合し、平成12年に設定した試験地を収用している。</p> <p>2 試験地設定及び調査内容</p> <p>①平成12年度 モデル団地内に設定 ..... 設定時の林分調査</p> <p>②平成14年度 モデル団地内に設定 ..... 設定時の林分調査</p> <p>③平成15年度 白神八甲田緑の回廊内に設定 .... 伐採前の植生調査 伐採前の自動撮影カメラによるモニタリング調査（動物の移動状況等）</p> <p>3 誘導手法等 現地の林況の違いから針広混交林への誘導手法を2タイプに分けている。</p> <p>①人工林へ侵入してきた広葉樹を仕立て混交林へ誘導する手法。 ◎モデル団地内に設定した試験地がこのタイプであり、過密林分になっていることが特徴。 ◎劣勢木を主体に概ね50%の本数伐採率で、間伐を行っている。 ◎間伐効果については、設定より5年後に調査を行い検証する。</p> <p>②一斉人工林を列状伐採等により、開空率を上げ広葉樹等稚樹の発芽・生長を図る手法。 ◎白神八甲田緑の回廊内に設定した試験地がこのタイプである。 ◎伐採率は、33%で実施している。</p>								
開発成果等	<p>1 矢立試験地は今後、変移の観察を継続する。</p> <p>2 平成12年度業務研究発表会にて、「侵入広葉樹の育成による優良針広混交林への誘導試験」を公表</p> <p>3 平成15年度森林・林業技術交流発表会にて「緑の回廊内における針広混交林化への誘導について」を公表</p>								